○タイワンニンジンボク内地で越冬する（久内清孝）　Kiyotaka Hisauchi: *Vitex negundo* L. hardy in Chiba Pref. near Tokyo

長野の善光寺詣での際に一本をもち帰り，千葉県八千代市で挿木したものが，露地にて越冬活着し花が咲き実も出来たので，この低木が内地でも越冬することが明かになって，私もこの木を貰い受けて東邦大学の園に植えた。この低木は熱帯的のもので，台湾や沖縄で知られていることは周知の通りである。学名は，*Vitex negundo* L. であるが，この種名はニンジンボクにあてられたり，別物になったりして混乱した。この問題については海外の学者がかなり混乱させたが，松田定久氏が植雑 **28** (No. 314) : 419 (1914) の“ニンジンボク雑説”でニンジンボクとは別のもので *V. cannabifolia* と同一でないことを説述している。それなら *V. negundo* の和名というと別になければならない。そこで，これにつけられた名としてタイワンニンジンボクという和名をしらべて見たら，佐々木舜一氏が台湾植物名彙(1928)に (n.n.) として公表したものが古いようである。即ち *V. negundo* L. の和名はタイワンニンジンボクである。これにセイヨウニンジンボクという名を用いる人もあるがそれは南欧のもので *V. agnus-castus* L. であると松田氏は指摘している。植物総覧もこの説をとっている。それはそれとして，ここではこの植物が内地で越冬することを記しておく。尚，台湾出身の許建昌博士の語るところによれば，台湾ではこの葉に特有の香りがあるので味噌を醸造する際，中層にこれを入れるという。なかなか興味ある事実である。

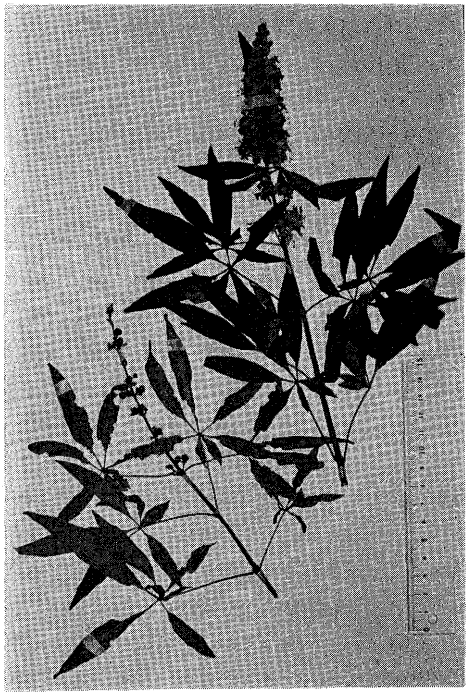

図 1. タイワンニンジンボク *Vitex negundo* L.